



ユースとして サステナビリティを考える意義

分科会3：ユースと共に進めるマルチステークホルダーの連携

大貫萌子

自己紹介

慶應義塾大学 総合政策学部2年

蟹江憲史研究会所属

SDGs-SWY

背景：

- ・ 小学校時代を南アフリカ共和国で過ごし環境問題や社会問題に関心を持つ
- ・ 高校生でSDGsを知り、活動を開始
- ・ 大学ではSDGsを学問として学びながら積極的に自分の足で行き、実際に見て問題意識と向き合うことを大事にしている



これまでの活動（学内）

蟹江憲史研究会

- ・ 豊岡市におけるSDGs教育を通じた地域の魅力発見
 - 但東地区の中学生に対しSDGsを教え、地元を持続可能性から評価魅力を再発見し、Uターン人口の増加を目指す。
- ・ High Level Political Forum 2019
 - NYにある国連本部にて実際の会議を見たり、サイドイベントへの参加
 - 帰国後、河野大臣との対談



これまでの活動（学外）

SDGs-SWY

SDGs for school

- ・ EarthdayTOKYO2018,2019出展
- ・ SDGsアイデアブック 「中高生と考えるページ」 編集参加

SDGs-SWY(Shift Our World by the Youth)

- ・ SDGsに取り組むステークホルダーへのインタビュー・記事の発信
- ・ 大学やイベントでの登壇
- ・ 北海道下川町見学
- ・ 問題意識から実際に企業とプロジェクトを進める



活動成果

- ・ SDGs for school
 - 初めは10人程度の集まりだったが、今では100人を超える学生を巻き込んでいる。
- ・ HLPFへの参加
 - SDGsは問題解決のための「共通言語」であることを実感、自分の意識が変わった
- ・ 豊岡プロジェクト
 - SDGsの視点を中学生が身につけ大学生がいなくても企業へインタビューし、サステナビリティ について考えられるようになった
- ・ SDGs-SWY
 - これまで多くの方々にインタビューし、記事を発信。また、大学での講演会などを通して多くの学生にSDGsについて知ってもらい、仲間を増やした。
自分の問題意識から企業と連携し実際に行動に移している



他者との連携

大学

知識を身につけ、
チャンスを広げる場
多くの仲間を見つける場でもある



自治体
共同研究



自分



企業

学生のみではできないことを支援して頂く
問題意識から何か新しいものを生み出す
共同研究を行う



中学校

SDGsを教え、一緒に
持続可能性を考える



大人

機会や知識を与えてくれる
話を聞き、繋げてくれる



課題

- ・ SDGsの認知度と理解度の両立
 - 多くの人を巻き込む中で、SDGsの理解度を高めることは難しい
- ・ 「自分ごと化」がそれぞれできるか
- ・ 実際に行動に移せる学生をどのように増やすか



ESDを通して

- ・ ESDを受けている者として

- 自分の身の回りを科学的に観察し目を向け疑問を持ち続ける
- 「自分ができること」を考え、実際に行動し、回りを巻き込む

☆社会に何かグッドインパクトを与えられる人間に！！

- ・ 多くの人を巻き込み、自分でこの問題をこうしたい、

「このような未来にしたい」と主体的に恐れずに行動できる

仲間を増やして行きたい。

